

# 手探りだから楽しい、男性だけの料理活動

活動地域（静岡県掛川市）

## 男性のプロフィール

氏名：木下 英雄さん

年齢層：高齢者層（60歳以上）

活動概要：「男子厨房に入る会」会長。妻の留守、病気などに対応するため、自分たちで料理を覚えて妻の手助けをすることを目的として、町内会の高齢男性のみで献立、買い物、調理を行う活動を実践。

## 活動開始のきっかけ

### 「夫婦の会話が増えるかも」という期待から参加

全国的に共通する問題かもしれませんが、当地域においても、退職した男性の孤立化が進みつつあるという問題を抱えていました。2年ほど前にこの問題を何とか解決できないかと、区長をはじめ、町内会の3役が集まり、退職した男性の孤立化を防ぐ方法について議論を重ねました。そこから誕生したのが、高齢男性が献立から買い物、調理の全てを、講師を立てることなく実践する「男子厨房に入る会」でした。平成22年4月、会が発足し、町内会への回覧板を通じて、参加者募集が行われました。

私は、その回覧を見て、参加したメンバーの一人です。参加を決意したのは、誰かから勧められたとか、誘われたとかではなく、「この会に参加すれば、妻との会話の中に料理の話題が加わって、会話も増えるかもしれない」という期待からでした。

私は今、65歳ですが、私たちの年代は「料理は女性がやるもの」、「料理なんて恥ずかしい」というイメージを持っている男性が多いのかなと想像しています。しかし、私の場合、料理ができることで得られる効果の方を重視しました。例えば、「料理が作れたら、今の暮らしがもっと楽しくなる」、「ある程度、料理が作れば、妻が病気などで家を不在にしたときでも困らないだろう」、「災害が起きた時に料理ができれば、世のためになるはず」など。

このように、料理はこれからの人生の様々な場面で役立つのではないかという期待を持って、「男子厨房に入る会」に加わったのです。

## 活動の内容

### 献立、買い物、調理全てを自分たちだけで考え実行

「男子厨房に入る会」は、町内会の自発的、主体的な活動であり、毎月1回、第3日曜日に開催します。60～70代の退職した男性が対象で、現在の会員数は11名です。私は今、会長を務めていますが、誰がリーダーということもなく、また、役割を設けることなく、皆が同じ立場で料理を楽しみます。食事などの経費は、参加者で割り勘とすることをルールにしています。

会では、献立を考えることから始まります。献立は普段食べるような一般的な家庭料理を中心に考えます。会員の多くは畑を所有していて、自分の畑で採れた野菜などを使って簡単な家庭料理を作りたいことを希望する人が多いからです。

朝9時に公民館に集合したら、3品程度の献立を話し合っって決め、その後、スーパーで食材を購入します。そして、10時半ごろから料理を作り始め、料理を食します。世間話をしたり、次の会の献立について話し合ったりと、食事の時間が一番盛り上がります。そして、14時ごろ解散し、終了となります。

## 料理ができると、妻との会話もはずむ

何しろ料理は初心者ですので、これまで失敗の連続でした。そのような中で、味付けがうまくできたときには、喜びもひとしおですね。料理を指導してくれる講師を呼べば上達も早いかもしれませんが、「自分たちの手でやろう」というのが「男子厨房に入る会」のモットーですし、その方が楽しいと思っています。教わることよりも、挑戦して楽しむことを優先しています。

1年が経過して、一般的な家庭料理はだいたい作れるようになりました。妻も勤めているため、仕事で帰りが遅いときには自分が料理を作ります。妻は喜んでくれますし、料理を話題にしたコミュニケーションが増えました。会に入る前に持っていた期待が、確実に実現できているなと感じています。

### 周囲との関わり

#### 妻から受ける、料理のアドバイス

「男子厨房に入る会」は、男性だけの活動です。また、講師を立てずに、会員のみで、料理本で研究しながら、「ああでもない、こうでもない」と試行錯誤しながら味付けや盛り付けなどを行っているので、時にはうまくいかないこともあります。そのようなときには、会が終わった後、妻にそのことを話し、アドバイスを受けるようにしています。入会前には、料理について妻と語ることもなんて考えられませんでした。

私も含め、会員は皆、料理経験のない初心者です。だから、「男子厨房に入る会」で作った料理がすぐにマスターできるわけではないので、メンバーたちも自然と、家でおさらいするようになっています。

### 直面した課題と解決方法

#### 男子厨房仲間を増やすことが課題

「男子厨房に入る会」は今年で2年目ですが、会員は変わらず同じメンバーで、もともと顔見知りなので楽しくやっています。しかし、会員の中には仕事を持っている人も多いため、毎回、会員の半分程度の5~6名程度しか参加できていません。一人でも多くの会員に参加してもらえるよう、電話で呼びかけたり、開催案内を事前配布したりしていますが、思うようにはいかないのが現状です。

また、会員だけでなく、新しく加入するメンバーが少ないことも課題です。町内会の一部の方の参加しか得られていません。入ってみれば楽しさを実感してもらえるという自信はあるのですが、その楽しさがうまく伝えられていないように感じています。地域だけでなく、自分の職場仲間にも加入を勧めるのですが、「よく料理なんてやるな」、「面倒臭そう」といった具合です。

会のさらなる発展と新規メンバーの獲得に心がけ、男子厨房仲間を増やしていきたいと考えています。

### これからの展望

#### 仲間とともに、料理の幅を広げていきたい

「男子厨房に入る会」に参加する人がいる限り、私はこの活動を継続していきたいと思っています。男子厨房仲間とともに、さらなる料理のレベルアップを目指していきたいですし、おせち料理など、色々な家庭料理に挑戦し、料理の幅を広げていきたいと思っています。

# 若者が元気に活躍できる場をおやじたちが創出

活動地域（愛知県大口町）

## 男性のプロフィール

氏名：土井 謙次さん

年齢層：中高年層（40～50 歳代）

活動概要：「おおぐちおやじの会」のメンバーの一人。メンバーは現在約 30 名、平均年齢 52～53 歳。女性が約 3 割を占める。

## 活動開始のきっかけ

### 地域の子どもや学校が抱える問題解決のためにおやじが立ち上あがる

今から 10 年ほど前、大口町では、「世代間交流が少ない」、「町や地域行事への父親の参加が少ない」、「生徒指導に困っている中学校がある」などの問題を抱えており、学校関係者や P T A 関係者などはその点に問題意識を感じていました。ちょうどそのような時期に、後に「おおぐちおやじの会」を設立することになった現、田中聖章会長が、ある講演会で聴いた「小坂井中学校おやじの会」代表の中西氏の話に触発されて、「地域のおやじが集まる、おやじの会を作りたい」という思いを強くしたのです。それを機に、会長をはじめ、地元中学校の新・旧 P T A 会長が集まって、「おやじの会設立準備委員会」を平成 14 年 3 月に立ち上げ、その後、計 3 回の準備委員会の開催を経て、平成 14 年 6 月、「おおぐちおやじの会」の設立に至りました。私自身も、準備委員会からおやじの会設立までメンバーの一人として携わりました。

## 活動の内容

### ジャンルを限定せず、老若男女が楽しめる行事を企画・運営

「おおぐちおやじの会」としての最初の活動は、地域の「夜回り」をすることでした。しかし、これは一回で挫折。地域との人間関係が構築されていない中での夜回りは、若者たちに受け入れられなかったのです。このため、おやじの会の認知度を上げること、地域の若者が参加できる行事をつくること、若者との関係づくりを行うことを目指すことにしました。

そのための取り組みの一つが、「ダンス&ミュージックフェスティバル」です。平成 14 年 12 月、町の経済的支援を受けて、おやじの会が主催しました。青少年の子どもたちのパフォーマンス発表の機会とすることが第一の目的でしたが、世代間交流もねらって、主婦や大人も出演団体に加えるとともに、ダンスや音楽のジャンルも限定しないこととしました。イベント前には、出場する子どもたちの育成のために、ヒップホップダンススクールを開きました。若者が参加できる「ダンス&ミュージックフェスティバル」は毎年開催しており、昨年で 10 回目を迎えています。

また、父子のふれあいの機会を提供することを目的とした「父子料理教室」（町との協働事業）や、若者が活躍できる場を創出することを目的とした「ロックバンドフェスティバル」も開催しています。

平成 24 年 1 月には、おおぐちおやじの会が中心となって「愛知おやじサミット」を開催しました。県内各地からおやじの会の代表が集まり、「子育てに父親がいかに関わるか」を熱心に討議しました。

このほか、「大口町民体育祭」や「ふれあいまつり」を支援するなど、地域イベントにも貢献しています。



ダンス&amp;ミュージックフェスティバル



父子料理教室（中学校の料理教室にて実施）

## 子どもが変わってくれたとき、参加者との一体感を実感したとき

10年ほど前、生徒指導に困っていた中学校をPTAとおやじの会が連携して救った出来事が、特に印象深く残っています。正規の学校主催の文化祭とは別に、第二の文化祭「ゆりの木祭」をPTA主催、おやじの会協力のもとで開催しました。ゆりの木祭は、生徒の自主性に任せて、バンドを組ませ、バンド練習をし、それを披露する場としました。ゆりの木祭を経験したことで、生徒の中で抑圧されていたエネルギーが良い方向に発散したのか、生徒たち間で「何か」が変わり、その後、劇的な効果が見られました。活動的になったり、部活動の成績がアップしたりと、それぞれの生徒のターニングポイントになったのです。その後、学校はどんどん良くなっていきました。このように目標を達成するたびに、喜びを感じています。

また、ダンス&ミュージックフェスティバルを開催した際に、出演者と観客が一体になって会場が盛り上がりを見せたときや、父子料理教室の際に、父親と子どもと一緒に料理を作り、できあがった料理を食べている場面を見たときには、嬉しく、また、微笑ましく、「毎年やって良かった」と思います。

### 周囲との関わり

#### おやじの会だけど、女性をメンバーに勧誘

女性が約3割も占めるのは、一般的な「おやじの会」としては珍しいケースだと思います。もともとは女性団体から幼児教育の運動会などで男手がほしいとおやじの会に依頼があり、「それなら、おやじの会の活動も手伝って」と交渉し、「いっそのことメンバーになって」と誘ったのです。女性の中核メンバーも育っています。女性に助けられることや教えられることは非常に多く、会の中での女性の存在は大きいと感じています。

#### 個性あふれる多様なメンバーとのつながり

おやじの会には、昔フルだったけれど今は立派なおやじ、まちの電気屋さんや建設会社社長、研究者、校長先生の経験者など、本当に個性あふれるメンバーがそろっています。私自身、この会を通じて、すばらしい人たちと出会い、ともに活動を続けてこられたことを誇りに思っています。

上述以外では、中学校との関わりが挙げられます。おやじの会は、中学校のソフトボール部との交流試合や中学生の保護者と協力した「中学校の窓ふき」を行っており、中学校との良好な関係ができています。

### 直面した課題と解決方法

#### 30代、40代の男性の新規参加者の勧誘が課題

おやじの会は年齢層が50代中心であり、今後、活動を継続するためには、小中学校に通う子どもを持つ現役の30代、40代の男性の新規参加が重要であると考えています。

これに対応するために、おやじの会主催イベントや支援イベントの開催時に、おやじの会のPRチラシを配り、新規参観者の勧誘を行っています。しかし、今のところ、30代、40代の新規参加者はあまり増えていないため、今後も引き続き、勧誘を行っていきたいと考えています。

### これからの展望

#### メンバー仲良く、これからも活動を継続

おやじの会のメンバーは、自らの意思で集まってきて、好きで活動を行っている人ばかりなので、メンバーが集まると本当に楽しい時間を過ごすことができます。これまでも、おやじの会の主催イベントや支援イベントでは、子どもたちだけでなく、自分たちも楽しみながら活動をしてきました。今後は、会員間の親睦をより深め、もっともっと活動を楽しめるように、イベント活動とは別に、参加者自身が楽しめる行事（田楽パーティやバーベキュー、日帰りツアー）も企画し、実行していきたいと考えています。メンバーの仲が良ければ良いほど、活動は長く続けられると思います。

# ストリートパフォーマンスで若者が元気なまちをつくる

活動地域（三重県名張市）

## 男性のプロフィール

氏 名：長岡 克明さん

年齢層：若年層（20～30 歳代）

活動概要：「ホットポイズン」という名の若者からなる組織を立ち上げ、BMX、スケボー、ダンス、バンドといったストリートパフォーマンスと言われる活動の練習や表現の場を作るとともに、若い世代に魅力ある地域にするためのイベントを企画・運営している。現在のメンバーは 10 名。

## 活動開始のきっかけ

### 「若者が楽しめないまち」を自分たちの手で変えたい

大阪のベッドタウンという特性を持つ名張は、若者にとっては、地元での就職先がない、娯楽施設や行きたい場所がないなど、魅力があるまちとは言えず、若者の地元離れが進んでいました。私は地元出身で、このまちに愛着もあったことから、「若者を中心として全世代が楽しめるものがあれば、少しでも多くの若者が名張に関心を持ち、住んで楽しいまちと実感できるのではないか」とずっと考えていました。

そのようなとき、ボランティア活動をしている一人の知人が、駅前で BMX（オフロードを走るための自転車）の練習をしている若者に声をかけ、「名張には BMX の練習場所やそれを披露するためのイベントがない」というつぶやきを聞いてきました。このつぶやきを、知人と私を含めた地元仲間 10 名程度で共有し、私自身もバンドをやっていたその練習場所がなかったこともあり、「名張に BMX などの公の練習の場を作ろうか」と話をしたのが活動の最初のきっかけです。

その後、約 1 カ月ほど話し合いを重ねて、若者世代の共感を得やすいスポーツの代表であるストリートパフォーマンスで若者を盛り上げることとし、それを実現するための活動組織として、平成 16 年 4 月、市民グループ「ホットポイズン」を地元仲間とともに立ち上げました。

まず、我々は、若い世代に人気のある「BMX」、「スケボー」、「ダンス」、「バンド」の活動の練習や表現の場所を作ることから着手しました。しかし、ストリート系の活動というのは、個人では得難い広い面積の活動場所や設備が必要となることや、一部の非常識な行動や無理解による偏見などによって、活動を進めにくいという問題があり、我々だけの力ではその実現が困難でした。そこで、我々の思いや問題意識を文書にまとめ、平成 17 年 9 月、市長に活動場所の提供を依頼する要望書を提出しました。その結果、名張市総合体育館駐車場の一部を開放してもらえることになったのです。そこを若者に開放するとともに、ホットポイズンとしてもスケボーなどの活動場所として利用するようになりました。

## 活動の内容

### ストリート系総合イベントを企画・運営

若者の定住促進を目指して、ストリート系総合イベント「NABAR I ストリート・フェスタ」をホットポイズン主催で平成 17 年より開催し、過去 7 回の実績があります。

企画段階から中高生を交えて検討するなど、世代を超えたメンバーで取り組む工夫をしてきました。また、イベントには、ストリート系パフォーマンス以外に、若者に行政に関心を持ってもらうために「市長と高校生の公開座談会」を取り入れたこともあります。

#### ◇NABAR I ストリート・フェスタの概要◇

- ・ストリート系パフォーマンス
- ・フリーマーケット、露店などの出店
- ・市長と高校生の公開座談会
- ・素人パフォーマンスコンテスト



## 出演依頼が増え、バンドやダンスが地域に受け入れられてきた

名張には、夏祭りや盆踊りなどの地域的な祭りがありますが、これまでは出し物といっても歌があるくらいで、盛り上げに欠けるということがありました。こうした祭りに、地元の方からホットポイズンに問合せがあり、「バンドやダンスを出展してもらえないか」といった依頼を受けるようになりました。

また、地域の祭りに実際に出演すると、地元の方々が我々の活動を知り、その後、様々な場面で声がかかるようになりました。

当初は、名張市総合体育館駐車場の一部が、ストリート系活動を行う我々の活動場所だったのですが、活動を展開していく中で、名張のまちの中に活動の場が広がってきていることを実感しています。

### 周囲との関わり

#### 地域組織との連携が不可欠

商工会議所の青年部は、名張を盛り上げようと、ローカルヒーローや「名張牛汁」といったB級グルメに取り組むなど、我々の活動とも目的が共通する部分がありました。ホットポイズンのメンバーに青年部とつながりがある者がいたことから、資金面や人員面、人集めなどの面で青年部の協力を得ながら、これまで活動を進めてきました。

ホットポイズン単独での活動では、できることが限られたと思います。こうした地域の組織と連携するメリットはとても大きいと感じています。

このほか、地元企業から協賛金を得られ、活動資金に充てることができました。

### 直面した課題と解決方法

#### 次の目標をどう設定するかという課題に直面

平成17年からホットポイズンの活動を実践してきて、当初の目的であった「若者を中心とした全世代が楽しめるイベントの開催」は、着実にクリアできつつあると感じています。しかし、そうしたとき、次の目標をどう設定するのかという問題に突き当たりました。このため、平成23年4月より、ホットポイズンは活動休止状態です。

ホットポイズンのメンバーの平均年齢も上がり、30歳となっています。立ち上げ当時のメンバーがこれまで主に活動を担ってきましたが、次の世代を育てるべく、人材育成に取り組んでいく必要性を感じるようになりました。ホットポイズンの次の課題は、人材育成、そして、若い世代をメンバーに加えての活動の再開であると思っています。

### これからの展望

#### ゼロからのスタートで、さらなるステップアップを

我々の活動の結果、若者の定住が増えたといった劇的な効果が表れているとはいえませんが、イベントの回を重ねる中で、若者を含めた地域全体が、少しずつ盛り上がりを見せているように感じます。

今、ホットポイズンは活動休止状態ですが、この4月、名張から離れていた当団体の代表が戻ってくるため、メンバーで集まり、ホットポイズンの今後の活動目標をどう設定していくかを話し合う予定です。我々が主催してきた「NABAR I ストリート・フェスタ」も、今後、継続的に開催していきたいと考えています。

初心に立ち返り、ゼロからのスタートで、さらなるステップアップを遂げたいと思います。そして、今後も長く、名張のまちに若者が定住する手助けを、自分たちのオリジナルの方法で実践していきたいと思っています。

# 市民センターと連携し、うつ病患者を積極的に支援

活動地域（大阪府枚方市）

## 男性のプロフィール

氏名：松尾 秀人さん

年齢層：高齢者層（60歳以上）

活動概要：うつ病経験や心理相談員の経歴を活かし、「うつ病ほっとサロン」というサークルを立ち上げ、情報交流、相談、面談等ボランティアで取り組んだり、「うつ病でもできる簡単料理教室」や「うつ病患者向けの就職活動支援セミナー」など数多くの講座を開催したりしている。

## 活動開始のきっかけ

### 病院だけではケアできない、うつ病患者を救いたい

私は、もともと自分自身の、辛くて長い、うつ病の闘病体験があり、同病患者のサポート体制に対して、病院や薬、休養を中心とした治療がメインで、それ以外のサポートが不十分であることに問題を感じていました。また、病弱であったがためにこれまで多くの周囲の方々に支援をいただき、迷惑をかけてきたことから、うつ病の症状が落ち着いてきたこれからは、見ず知らずの人への支援を通して、間接的に、お世話になった方々への恩返しをしたいという気持ちを持っていました。

そのような思いをもっていたころ、枚方市菅原生涯学習市民センター（以下、「市民センター」という）が「うつ病情報交流会」を主催することを知り、私はこの会に参加するとともに、自らのうつ病の闘病体験を話しました。交流会に参加し、同病で悩んでいる方が多いことを知り、うつ病患者を支援したいという思いを強く持ったのが、私が同病患者の支援活動を開始するきっかけとなりました。

当初は、市民センター主催の「うつ病情報交流会」に参加して、適宜助言を行ったりする程度の関わりだったのですが、交流会の参加者と、「1時間半の交流会では話し足りない。もっと別の話し合える場ができるといいね」と話し合ったことから、それを実現させようと、平成19年10月、私的なサークル「うつ病ほっとサロン」を立ち上げました。

交流会との特色の違いを出すために、サロンは、市民センターにおいて、より少人数で開催し、開催時間についても13時～17時と長く設けました。また、本音で話し合えるように会員制とするとともに、アットホームな雰囲気づくりにも心がけました。サロンの立ち上げに踏み切れたのは、平成8年に中央労働災害防止協会認定の資格「心理相談員」を取得していたことが要因の一つであったと思います。

## 活動の内容

### うつ病患者を様々な面から支援

現在では、「うつ病情報交流会」において、コーディネーター・ファシリテーター役を務め、意見交換がより活発かつスムーズにできるような支援をしています（毎月1回）。「うつ病ほっとサロン」では、運営責任者として、より少人数での一歩踏み込んだ情報交流ができる場を提供しています（毎月1回、3年間で参加合計390名）。



うつ病ほっとサロン

このほか、心理相談員として、うつ病の患者と家族への個人面談の実施、「うつ病でもできる簡単料理教室」や「うつ病の人の就職活動支援セミナー」などを開催してきました。

## 参加者からいただく声は何よりも嬉しい

「仕事に復職できた」という回復の声を多くいただきます。また、中には「私に会えて良かった」、「生きててくれて良かった」と言ってくれる方もいます（私も自殺未遂をした経験があります）。このような参加者からいただく声は、私にとって、かけがえのないものになっています。また、現役時代には、職場に迷惑をかけ、居場所を実感しづらかった面がありますが、退職した今、生きていることを周囲に認められるようになり、そのありがたさを実感しています。

### 周囲との関わり

#### 市民センターのおかげで活動の幅が広がった

周囲との関わりで大きいのが、行政との関わりです。特に市民センター職員からは、活動拠点の利用や利用料金減免に対するアドバイス、活動全般にわたる助言指導、活動への間接支援などを受けており、とてもお世話になっています。また、市民センター主催の「うつ病回復フォーラム in すがわら」は、私が長年温めていた企画でもあったのですが、市民センターの理解によりフォーラムが実現するなど、市民センターのおかげで地域活動の幅を広げることができていると感謝しています。

このほか、私的サークルの会員や大阪府保健所などからも様々な理解と支援を受けています。

### 直面した課題と解決方法

#### 活動の効果を最大限に発揮するために

うつ病患者を支援するために、私は市民センター主催の情報交流会とは別に、私的サークルを立ち上げ、うつ病患者に対する助言などを行ってきました。しかし、活動の効果を最大限に発揮させるために、より一層きめ細かい支援ができないかと考えるようになりました。

そこで実践したのが、「表に出ない活動」です。具体的には、面談や電話などによる個別無料カウンセリングです。対象者は、情報交流会やサロン、フォーラムの参加者とし、会合の後にマンツーマンでケアをすることにしました。

こうした一連の活動の成果として、様々な効果が出てきました。支援が役に立って顕著に回復し、家庭や職場生活に復帰したという実例のほか、「サロンがなければ、今の私はいませんでした。また来てもいいですか」という嬉しい声などをいただいています。

### これからの展望

#### うつ病患者をサポートできる人材を全国に広げたい

私の夢は、うつ病患者への回復に向けた方向付けの助言や、その支援を行う人材（うつ病回復コーディネーター）を育て、そうした人材を全国に広めていくことです。

また、月1回の「うつ病情報交流会」や「うつ病ほっとサロン」のような意見交換の場も全国に広げたいと思っています。情報交流会やサロンには、枚方市以外の市町村から来られる方もおり、需要は高いのではないかと考えています。

少しでも多くのうつ病患者の手助けができるように、その夢に向かって活動を続けていきたいと思っています。

# 素晴らしい熟年男性を目指す、男の腕まくりOB会

活動地域（大阪府羽曳野市）

## 男性のプロフィール

氏名：國領 邦雄さん

年齢層：高齢者層（60歳以上）

活動概要：「羽曳野市・男の腕まくりOB会」の発起人の一人で、男性のための料理教室を中心に、パソコン教室、グラウンドゴルフなどを開催している。会員は30名。会長代行を務めている。

## 活動開始のきっかけ

### 市主催の料理教室への参加がOB会設立につながる

会社を退職し時間的な余裕ができたとき、実は「家では何もできないこと」に気づきました。妻からは「料理でも習ったらどう。料理ができれば、あなたも私も助かるし」と言われていたところ、ちょうど、市の広報で、男性向けの料理教室が開催されることを知り、「よし！これに参加しよう」と決心したのが始まりでした。この料理教室は、「男性は仕事、女性は家庭」という固定的な考え方を払拭し、男女共同参画社会の実現を目的に毎年開催されるもので、私は平成19年2～3月にこの教室に参加しました。

この料理教室での経験が楽しく、「これで終わっては、もったいない」との思いから、参加者のうちの5人が発起人となり、同4月、「男の腕まくりOB会」（以下、「OB会」という）を立ち上げました。

OB会の立ち上げに至るまでには、市との折衝で多くの時間を要しました。市とは数十回に及ぶ打合せを行いました。回を重ねるうちに目的が合致してきたので、今思えば、嬉しく、意義のある論争だったと思います。市との調整の結果、活動の場の提供は市に支援いただくこととし、その他の講師選定から会員募集などの一切の運営はOB会が担うことで意見がまとまりました。

## 活動の内容

### 毎月1回、プロの味と料理の美しさを追求

市主催の料理教室で基本のワザを学んだ者が集まり、料理を通じて広く交流を深め、これからの暮らしをさらに充実させていくことがOB会の目的です。基本的には定年男性を対象とし、会員は30名です。

市の社会教育施設内の調理実習室を利用し、月1回、料理教室を開催します。講師には本物の料理人を招き、男性講師からは「プロの味」を、女性講師からは「料理の美しさ」を指導いただいています。

また、市の担当者や講師、準会員が参加する年1回の総会と、月1回の役員会を開催しています。役員は会長と会長代行の2名ですが、幹事を15名設けて会計や行事、渉外などの業務を振り分けることで、次期役員を育てるようになっています。こうして、今年で6年目を迎えた料理教室は、延べ31回を数えました。

我々は、「単なる男の料理教室から、素晴らしい熟年男性の集団に成長すること」を目指しているため、料理教室以外に、月1回のパソコン教室、週1回のグラウンドゴルフ、のど自慢大会、納涼会、忘年会、研修旅行など、親睦を図る活動も充実させ、楽しい人生が送れるようになっています。



料理教室



のど自慢大会

## 同志と今日まで活動を続けてこられたこと

「男の腕まくりOB会」の設立から、今日に至る活動は、一人の力では決して成し遂げることができなかったと思います。発起人5名が誰一人と欠けることなく、同じ想いで活動を続けてこられたことは非常に良かったと思います。メンバーにも恵まれました。職種経験も、性格も異なるもの同士が集まっているのですが、困った時には互いにフォローし合い、どんな困難にも対応してきました。

これからも同志5名、団結して活動を継続していくことが、私のこれからの生きがいでもあります。

### 周囲との関わり

#### 夫が料理をできれば、妻は喜び、友人と外出できるように

退職後、家にいることが多くなりがちな夫の食事を心配して、友達と外出できないと嘆く妻が多いと聞きます。こうしたなか、料理教室に参加した方のご家族から、夫が料理をするようになったことに対し、お礼の電話をいただくことがあります。妻たちに喜んでもらえることは、最大の収穫でもあります。

OB会に鳥取県出身の方がおり、そのつながりから、年2回、鳥取県産の海の幸、山の幸を提供していただけるようになりました。お返しに、OB会として、毎年、同県の乾燥椎茸や特産米を購入したり、お礼ツアーとして全員でバス旅行に行ったりするなど、広域的な仲間のつながりが生まれています。

### 直面した課題と解決方法

#### 準会員制度をつくり、退会で数が変動するのを防ぐ

年間8,000円の会費から、料理教室の開催回数分の食材と講師料、活動費を捻出しなければなりません。著名な料理人に講師を依頼したいのですが、謝礼が高額なので実現は困難。とはいえ、会費の値上げは難しい。この板ばさみに悩みましたが、市内在住の料理研究家に依頼したところ、メンバーの中に親しい間柄の人がいることもあって、快くOB会の趣旨に賛同いただき、協力を得ることができました。

また、現会員は中高年で構成しているため、「再雇用で退会」、「腰痛で休会」、「家族の看護で退会」といった理由で、会員が変動します。そのため、常に会員を募集し、定員30名を超えた場合は、「準会員」として待機してもらうシステムを作りました。

定年男性は、現役のころの感覚で物事を考え、一家言を持っている人が多くいます。そういう方々は、ちょっとしたことで論争になることがあります。我々OB会は、楽しい料理教室を目指していますので、幹事が仲裁に入るようにしていますが、論争になった後には会員同士の懇親が欠かせません。納涼会や忘年会のほか、総会後に、「なんでも言い放題」の時間を設けて話し合い、問題の解消を図っています。

### これからの展望

#### 活動の楽しさを周囲に広く発信していきたい

OB会を健全に運営していくためには、多くの市民に会の存在を知っていただくことが必要です。そのため、楽しく充実した時間を過ごしている会員たちの姿をホームページで紹介するとともに、テレビや雑誌などのメディアを通じて、これまでも広く全国に発信してきました。市が開催する「男性料理教室」にOB会のメンバーが数名参加し、他の参加者に会の広報や会員募集を行ったりもします。我々の活動の様子は徐々に伝わり、「うちの夫もお願いします」といった嬉しい要望が入ることもあります。

「料理活動を通じて、羽曳野市に貢献できることは何だろうか」と、会員同士でいつも話し合っています。会員がそれぞれにOB会の活動を楽しみ、努力し、活動を充実させていくこと、そして、その楽しさを周りに発信していくこと。この目標に、これからも会員とともに取り組んでいきたいと思っています。

事例17

# 子育てと地域づくりに「おやし」のパワーを

活動地域（兵庫県姫路市）

## 男性のプロフィール

氏名：黒田 賢治さん

年齢層：中高年層（40～50歳代）

活動概要：PTA活動に取り組んできた父親たちが「網干おやし塾」を結成し、その任期を終えた後も父親同士でつながり、様々な地域活動を展開している。

## 活動開始のきっかけ

### PTA活動をきっかけに、おやしたちとの幅広い地域活動へと展開

母子家庭に育ち、小・中学校時代に転校を繰り返した思い出を持つ私の心底にはあったのは、自分に子どもができた時にはひとつの場所に根を下ろし、その地域に溶け込んで楽しく暮らしたいということでした。

家庭を持ち、一人息子が幼稚園に入園した時、「父の会」があることを知った私は、迷わずお手伝いすることに決めました。その時に知り合ったお父さんたちとの触れ合いは、仕事も年齢も違う父親たちが、子どもを中心に、楽しくボランティア活動を行い、終わったら打ち上げで盃を交わす、といった具合で、仕事やそれまでの交友関係とはまた異なり、新鮮で、衝撃的でした。

息子が小学2年になった時、PTA役員に誘われた際も、迷わず飛び込みました。網干地区は祭りで男性のつながりも強く、PTA役員も半数が男性、さらに姫路市教育委員会が「父親教室」事業を実施していたことなどがベースにあり、参加しやすい環境でもありました。そして息子が5年生の年にPTA会長を引き受け、夏休みに「父親教室」初の試み、グランドキャンプ（学校を利用した親子キャンプ）を同僚の男性役員と企画しました。これには校長先生の協力、理解が大きな支えになりました。

「おやしTシャツ」なるものを作って盛り上がっていくうち、次第に、PTAという枠に縛られずに活動すべきテーマがあるのではないかと、この思いが、仲間の中で広がっていきました。

多くの「おやし」たちと、色々なことを地域で取り組んでいけたら楽しいだろうと思ったのです。「おやし塾」設立段階での想いのひとつ、「父親が自ら楽しみ、仕事以外での楽しそうな笑顔、頑張っている姿、助け合う姿を子どもに示し、父親の魅力・活力のアップを目指す」を実践したいという大義名分と、楽しいお酒を飲みたいという本音がドッキングして、「網干おやし塾」が誕生しました。

## 活動の内容

### 自由に、機動的、多くのおやしたちが地域で取り組んでいけたら、きっと面白い

「網干おやし塾」は、網干小学校PTA「父親教室」の活動を通して、「もっと自由に、もっと機動的に、もっと日常的に、もっと色々なことを、もっと多くのおやしたちと、より広く地域の中で、永続的に取り組んでいけたら、きっと面白い！」を実現するものです。子どもたちとの忍者遊びやそば打ち教室、ペタンク、地域の各種イベント支援、児童センター支援等々さまざまなことに挑戦し、みんなで作り上げています。

#### ◇これまでの主な対外的取り組み◇

- |          |                        |
|----------|------------------------|
| 平成18年6月  | 設立記念懇親会                |
| 平成20年11月 | ひょうごおやしネットワーク設立に参加     |
| 平成21年1月  | 姫路おやしネットワーク設立          |
| 平成21年10月 | 知事さわやかトーク              |
| 平成23年2月  | 第8回全国おやしサミット in ひょうご開催 |
| 平成24年1月  | 第4回姫路おやしサミット開催         |

## キーワードは「おやじの背中」

おやじ活動のやりがいは、何よりも「おやじ」としての地域での居場所がしっかりできたこと。仕事でのつながりではなくて、日々暮らす自分たちの地域でのつながりがしっかり広がっていきえることを実感したことです。それはPTAでも自治会でもない自由な立場で、それでいて自分の子どもはもとより地域の子どものことをしっかり考えたり、その子どもたちの未来につながる地域の将来について、あり方についての思いを馳せながら色々な議論を交わし、今の自分たちにできることを楽しみながら実践に移していく。「おやじの背中」というキーワードでいろんな夢が広がります。

### 周囲との関わり

#### 家族の理解と、地域の連携・情報共有が重要

平成18年の発足当初、PTAのお母さん役員たちが理解してくれたことがありがたかったです。そして、家族が温かく見守ってくれました。「最近お父さん、なにやら楽しそう」という感じです。地域のこととなると母親任せの感がある「おやじ」が何やら地域に出て楽しそうにやっている。そんな「おやじの背中」は母親たちにとっても新鮮だったと思います。

自分の子どもに良い環境を整えたいという思いを実現するには、自分の家だけが良くてはだめで、自分たちの地域だけが良くてはだめで、結局、地域同士の連携、情報共有が重要だということを感じました。そこで、「おやじのネットワーク」をつくらう、いつかは「全国おやじサミット」を兵庫県で開催しようという思いが芽生えたのです。本当に無謀な話です。

ところが、おやじ塾のブログを見た兵庫県男女家庭室から声がかかり、父親の家庭・地域参加というテーマの施策と、私たちの考えが一致したことから、連携することになりました。知事との対談にも参加させていただき、市教育委員会の支援も得て、平成21年1月、「姫路おやじネットワーク」が立ち上げられました。こうして、既存の市内の父親教室をゆるやかにつなぐネットワークを構築することができました。

### 直面した課題と解決方法

#### できることを、できる時に、できる人がやる、を基本に

塾としても、個人としても、できることをできる時に、できる人がやる、ということの基本にしたので、きつかったと感じたことはありませんでした。この塾は、まず、おやじ本位、そして時々、子どもたちや地域のために、というスタンスでしたから、楽しくないはずがありません。

唯一、「全国おやじサミット in ひょうご」の実行委員会を運営した時は、多額の開催費用を管理し、緊張もしました。しかし、県やおやじ仲間の協力、助成団体の支援を得て、無事、開催できました。

### これからの展望

#### 全国のおやじがつながり、助け合うことが大事

「網干おやじ塾」は、まだ誕生して日の浅い組織ですが、偶然の出会いから、市、県、全国のおやじ仲間とつながっていくことができました。私自身、対外的な仕事を担当し、多くのつながりができたことをありがたく思っています。仕事や家庭の中だけの感覚とは違った世界が目の前に現れ、人前で何かを表現することのすばらしさ、大切さを理解させてくれました。

しかし、塾の中にも色々な「おやじ」がいて、子どもと接することを一番の喜びとする人だけでなく、外に出ていくことが苦手な人、あるいは子どもは苦手という人も。塾の活動ポリシーの一つに「参加の強要をしない」を掲げており、そうすることでその人なりに活動に入ることができていることは確かです。

それぞれの地域で、色々なキーワードで、つながりが一番大事であることを理解する「おやじ」が増えていることが効果のひとつだと思います。全国サミットをやり遂げて、今、大事にしたいと思っていることは、改めて地域の中で自分たちがやりたいことを見つめ直し、それを実現し、充実すること。今が発足当時と違うのは、全国の「おやじ」がつながり、いつでも助け合えるということなのです。

# 男一人で、女性に混じって福祉ボランティアを牽引

活動地域（岡山県里庄町）

## 男性のプロフィール

氏名：青木 耕治さん

年齢層：高齢者層（60歳以上）

活動概要：高齢者・障がい者支援のボランティアの代表を務めるほか、女性中心の子育て支援や中学生ボランティア育成の活動に唯一人の男性として参加している。

## 活動開始のきっかけ

### 仕事でお世話になった福祉の現場に恩返し

新聞記者生活 37 年。「リタイアしたら、恩返しのため、これまで取材してきた福祉の現場でボランティアをしたい」と思い続けてきました。嘱託期間満了後、最後の勤務地に近い岡山県里庄町に住み、知り合いの町議に会った際、自身が所属するボランティア団体に勧誘されたことが始まりです。

老人保健施設で毎週、主にシーツ交換をしている「里庄町ボランティアすみれの会」で、会員 60 人。男性が入るのは初めてでした。ピンク色のユニホームと白いズック靴を支給され、女性に混じって活動を始めました。

その後、車いすの清掃奉仕などを行っている中学生の「チョボラ・ジュニアの会」、未就学児童と母親たちの受け皿となる「フレンズ」の会員にもなりました。

それぞれ入会して 4 年になります。もともと人見知りや気後れするタイプではなく、いずれの会も男性会員は私一人ですが、十分に溶け込んでいると自負しています。ただ、男女共同参画社会という考え方が広まっているものの、私の同級生に福祉ボランティアをしている仲間はいません。ピンクのエプロン姿や赤ちゃんを抱いてあやすのを恥かしいと思ったら、できない仕事でしょう。

## 活動の内容

### 創立 20 周年の記念事業で講演会を企画

「すみれの会」では、平成 23 年度から私が会長を務めており、これまでのシーツ交換のほかに、別の施設で傾聴ボランティアの取り組みを始めました。お年寄りと言らい、昭和の懐メロを歌いあっています。また、平成 24 年度は創立 20 周年で、記念事業として 10 月に認知症の専門医による講演会を企画しています。「節目の記念事業でステップアップを」との思いから、役員の同意を得て、実現することになりました。

「フレンズ」も設立 10 周年記念で、会の新聞を発行することになりました。元記者のスキルを生かし、お手伝いするつもりです。

### ◇活動内容◇

#### ○すみれの会（平成 4 年発足）

町の老人保健施設「里見川荘」で毎週水曜日にシーツや布団カバーを交換するほか、敬老会や夏祭りなどで芸能を披露している。

#### ○フレンズ（平成 14 年発足）

週 3 日、町の老人福祉センターに子どもと保護者が集まり、情報交換し、悩みを話し合う。その間、ボランティアが子どもの面倒を見る。



#### ○チョボラ・ジュニアの会（平成 5 年発足）

里庄中学校の生徒約 100 人が、「里見川荘」で第 2 土曜日に、車いすや風呂の清掃、入所者との触れ合い活動などを行う。大人のボランティアがサポートする。

## 高齢者世代との触れ合いから、生きがいを感じる

「すみれの会」でシーツ交換や敬老会を通じてお年寄りと触れ合うことは、自分自身にとっても、生きがいを見つけることにつながっています。昨年からは、別の老健施設のお年寄りを対象に傾聴ボランティアを実施しており、月2回、施設を訪れ、お年寄りと語り、懐かしい童謡や流行歌を歌っています。また、「フレンズ」での活動では、私が抱くと泣き止む赤ちゃんもいて、「夫が抱くと泣くのに、青木さんに抱いてもらおうと笑ってる」と不思議がるお母さんもいらっしゃいます。にこっと笑ってもらえると、ボランティアをしていることにこの上ない喜びを感じます。

### 周囲との関わり

#### 同世代だから共通の話題と歌がある

活動を通じて、赤ちゃんからお年寄りまで、多くの人との触れ合いがあります。「すみれの会」で行う月2回の傾聴ボランティアでは、若いヘルパーさんは昔の話題や歌についていけませんが、我々は同世代。大いに盛り上がります。「フレンズ」では、クリスマスや雛祭りなどの飾りも、牛乳パックなどで手作りします。パックを解体するのが私の仕事です。「チョボラの会」では、中学時代の経験を生かして卒業後にヘルパーになった女生徒があり、子どもたちも確実に成長してきていると感じています。今後も地域の子どもたちを見守りながらの奉仕活動に喜びを見出していきたいと思っています。

### 直面した課題と解決方法

#### 会議は意見百出でまとまらないが、これこそ男女共同参画社会

すみれの会では、「敬老会」で踊りや歌を披露することも活動の一環であり、会員はこれまで、こちらにも参加してきました。「シーツ交換はともかく、踊りはちょっと」という人も多く、退会する原因にもなっていました。平成24年度からは気軽に参加してもらえるようにと、各班ごとに決めた踊りや歌のパフォーマンスに参加したくない人は、参加しなくてもよいことにする方向で調整しています。

また、バラエティに富んだ意見が百出するため、会議をしてもまとまらず、結論がなかなか出ません。一直線に結論を出して仕事を進めてきたサラリーマンの経験からみると、忍耐が必要なところがあります。特に、傾聴ボランティアや記念講演など新規事業に乗り出そうとした時には、かんかんがくがくの議論がありました。しかし、皆で議論するからこそ、議論の幅が広がり、ユニークな発想やアイデアが生まれます。だから、議論のときにはじっくり構えた上で意見を調整することにしています。

### これからの展望

#### 男性側が活動の輪の中に積極的に飛び込むことが大切

先日、町が60歳を迎えた百数十人の方を対象にセカンドライフの説明会を開き、シルバー人材センターやボランティア団体の活動を紹介したのですが、説明会に参加したのは女性20人、男性10人。各種団体に新規入会する人も、まだ現れていません。すみれの会の会長としては、創立記念事業を成功させ、これらの人たちに参加を呼びかけていくつもりです。

これからの時代は、女性社会に、男性が積極的に入り込み、女性の指導を受けながら、ともに歩いていくという姿勢でなければ、超高齢社会は乗り切れないと思います。幸い私は、いくつかの団体に属し、男性はたった一人なのに、女性の輪の中に入って活動できています。男性へのアドバイスは、サラリーマン時代のように高ぶることなく、とにかく輪の中に飛び込め、です。

# フリーペーパーの発行を通じて島おこしに貢献

活動地域（山口県周防大島町）

## 男性のプロフィール

氏名：大野 圭司さん

年齢層：若年層（20～30 歳代）

活動概要：約 8 年前、故郷である周防大島町へ Uターンし、フリーペーパーの発行や地域の学校などとの連携を通じて、島おこしに取り組んでいる。

## 活動開始のきっかけ

### Uターンして、若者の島離れに危機感

26 歳のとき、東京から周防大島に戻ってきたときに、もともと 13 人いた島の同級生が、自分を含め 4 人しかいなかったことに問題意識を感じ、「島おこしにつながることをしなければ」という思いを持ちました。しかし、島おこしといっても何をしていたかわからず、大学時代と東京の職場でのデザイン経験を活かし、今、自分にできることは何かを模索しました。また当時、「島で事業を起こすこと」が自分にとっての夢であり、事業を起こすなら、実際に起業している人に話を聞き、学ぶのが効率的であると考えていました。

そこで、自分のデザイン経験と、夢である起業を組み合わせ、周防大島で自営業や起業をしている若者を集めた冊子を自主制作し、無料配布するフリーペーパー「島スタイル」を発行することを通じて、自分にできる島おこしをやってみようとの思いに至ったのです。

## 活動の内容

### 起業家を応援するフリーペーパー「島スタイル」を定期的に発行

コンセプト設定、企画、取材、編集・デザインまでを全て自分一人で担当しています。また、発行するための十分な資金があるわけではないため、印刷費は、広告費でまかなうこととしました。このように、私の島おこしは、「一人で始められる」、「お小遣いで始められる」ところが活動のポイントであると思っています。

「島スタイル」の内容面で工夫したのは、そもそもの発行の目的が、起業のノウハウを自分自身が学ぶことと、起業している島民を元気づけることなので、自営業や起業家の創業の物語や思いなどのストーリー性を重視した内容としたことです。多くの島民にそのストーリーに共感してもらい、掲載したお店に足を運んでもらいたいというねらいもありました。

#### ◇「島スタイル」の概要◇

創刊：平成 17 年 2 月

仕様：A5・4 ページ

発行部数：5,000 部

発行頻度：年 4 回

配布場所：郵便局、観光協会、道の駅、銀行、薬局、ホテルなど島内 50 箇所



## 同世代や島民からの励ましの声が嬉しい

「島スタイル」の発行から6年が経過しましたが、島民から待ち望まれていることを実感しています。同世代からは「島スタイル、いいね」と言われたり、地域のおじさんやおばさんからは「がんばってね」と声をかけられます。こうした声を聞くと、本当に発行して良かったなと思います。

また、自分が活動をすることで、島外の人々に、「周防大島の元気なイメージ」や「周防大島のブランドイメージ」を発信できているのではないかと思います。

### 周囲との関わり

#### 島内の起業家、起業家予備軍、島民との関わりを大切に

「島スタイル」の誌面の中での主役は、自営業者と起業家です。取材対象者との関わりをととても大切にしています。密なコミュニケーションを通じて、「島で働くということ」についての考えや想いなどを具体的に聞き取り、それを誌面に反映し、島民に届けるようにしています。

また、起業家予備軍や起業家を応援する島民たちについても、広告料をとらずに「島スタイル」に掲載しています。これは誌面を通じて、起業家予備軍の成長を手助けできればという思いから行っています。

### 直面した課題と解決方法

#### 取材対象者がいないなら、島内で起業する人を増やそう

「島スタイル」を継続的に発行する上での課題は、人口が2万人弱と少なく、大きな島ではないため、取材対象者が限られてしまうことです。

解決策として考えたのが、起業する人を増やす事業を始めることでした。起業する人が増えれば、取材対象者も自然と増えます。このため、周防大島で起業する人が学べる学校を企画し、地元の大島商船高等専門学校に提案しました。それが文部科学省に認可され、周防大島の地域再生を目的に起業家を養成する学校プロジェクト「島スクエア」が実現しました。私は、この事業に大島商船高等専門学校のコーディネーターとして関わっています。起業家養成基礎コース、体験型観光起業コース、商品開発起業コースなどがあります。「島スクエア」の修了生のうち、既に30人程度が島内で起業しており、こうした方々を「島スタイル」の新たな取材対象者としていきたいと考えています。

### これからの展望

#### 多忙のため休刊中の「島スタイル」を復刊。今後も起業家を応援し続ける

最近では、「島スタイル」以外に、「島スクエア」への関わりのほか、県の男女共同参画審議会委員、県主催の男女共同参画推進事業によるセミナーのパネラーなど、活動の幅が広がってきており、「島スタイル」発行のための時間を確保することが難しくなってきました。このため、現在、「島スタイル」は休刊中です。「島スタイル」を復刊させるためには、新たな人材を確保することが必要です。そこで、今年度、東京の大学4年生の学生（男性）を半年間、インターンシップで受け入れることが決まっているので、彼に「島スタイル」の発行を担ってもらおう予定でいます。今後も「島スタイル」を継続的に発行し、周防大島で新たなコトを起こす島民、出身者、島ファンを応援していきたいと思っています。

私が起業家を応援するのは、「島に子どもを増やしたい」という思いがあるからです。子どもを増やすには、親となる大人を島に呼んでくる必要があります。大人が働くための雇用を生み出すことは難しいですが、起業家を増やすことなら私にもできます。だから、起業家の応援を通じて、島に起業家、そして、子どもたちを増やし、島のさらなる活性化につなげていきたいと思っています。

# 父と子が“一緒”だからこそ楽しめる活動を実践

活動地域（徳島県板野町）

## 男性のプロフィール

氏名：服部 大輔さん

年齢層：若年層（20～30歳代）

活動概要：平成20年、パパサークル「お父さんといっしょ」を立ち上げ、父親と子どもと一緒に楽しめる活動を実践している。

## 活動開始のきっかけ

### 実際に苦労して、初めて気付く。父親が子育てする際の障壁

私がパパサークル「お父さんといっしょ」という活動を開始したのには大きく3つの理由があります。

一つ目は、妻が双子を出産した際に半年ほど入院したこと。その時、仕事と家事の両立に大変苦労しました。二つ目は、「男は仕事、女は家庭」というかつての文化が、「男性の家庭参画、子育て参画」に変わり、必要に迫られて子育てをする父親が増えてきたのに関わらず、「違和感」や「やりづらさ」を感じるが多々あったこと。三つ目は、この思いに同感する友人・知人が身近に数名いたことです。

「違和感」と「やりづらさ」に関しては、例えば母子向けの雑誌やママサークルはあるのに、父子向けのものはないため、父親には情報を得る手段が乏しいことなどから感じていました。また、公園で遊ぶ場合も、PTAも授業参観も、小児科受診も母親が主体です。育児手当の申請に役所へ行くためには、平日に有休をとらなければなりません。

これらは、自分が当事者になって初めて気付いたことで、そのとき、どこの父親も同じリスクを抱えているのではないかと、ならば気付いた人間が何らかの発信をすべきではないかと感じたのです。

そこで、とりあえず、私の友人・知人に声をかけて協力を募ると、同じ思いを持つ人が賛同してくれました。これらの友人・知人の存在が、パパサークル「お父さんといっしょ」の設立につながりました。また、設立当初は当サークルでイベントを行おうとしても、信頼性の面で立場が弱く、イベント会場の確保さえ困難でしたが、徳島県民活動プラザを頼り、その「後援」を得たことで、活動の第一歩を踏み出すことができました。

## 活動の内容

### 「父親を楽しみたい」、「子育ての楽しさを伝えたい」という思いで活動

「お父さんといっしょ」の代表として、平成20年6月から不定期で活動しています。当会では、「父親を楽しむ」、「子育ての楽しさを知ってもらおう」をビジョンに掲げ、父親と子どもと一緒に過ごせる機会を設定することで、子どもと触れ合うことの楽しさや育児の大変さを認識し、父親が家事・育児に参加・参画するきっかけとなることを目指しています。具体的には、大人だけでも、子どもだけでも味わえない、「父親と子どもが一緒」だから味わえる行事を企画し、バーベキューや磯遊び、手作り料理体験などを行っています。

また、父親の育児に関する交流会や研修会、他のパパサークルとの交流会、地域の子育て支援活動団体が開催するイベントなどにも参加し、情報交換をしています。

#### ◇これまでの主な取り組み◇

- |          |                           |
|----------|---------------------------|
| 平成21年2月  | お父さんと作る♪親子で手作り水餃子         |
| 平成22年11月 | 父と子三輪車1時間耐久レース            |
| 平成23年1月  | パパといっしょに筆遊び               |
| 平成23年2月  | パパ講座（パパの絵本読み聞かせ＆パパを楽しむ極意） |
| 平成23年12月 | 知事とわいわい                   |

## 「達成感」、「参加者の評価」、「出会い」がやりがいに

父子を持つ一般の方を対象にイベントを開催して、そこで得られる達成感・充実感、参加者からの喜びの声、新たな領域での人との出会いが、私にとって活動をする上での楽しさとなっています。

また、サークルメンバーから得られる子育て情報や経験を、即、自分の家庭に活かすことができることも、活動のメリットであると思います。

### 周囲との関わり

#### 家族や友人、職場の理解、行政や関係団体の支援が不可欠

家族や友人、職場の理解と、行政やNPO団体などの支援が得られたことに感謝しています。

友人であるサークルメンバーの理解を得るためには、多くの時間を要しました。徳島県の地域子育て施策である「いきいき子育て応援団育成事業」に応募するかどうかや、応募するのであれば具体的に何を実行するか、などについて話し合ったときには、仲間と何時間も、何日もかけて意見の調整を図りました。その結果、理解を得られた友人は全面的にサポートしてくれています。職場からは、「仕事に影響のない範囲であれば」と言ってもらっています。行政は、徳島県子ども未来課や男女参画青少年課などが相談に乗ってくれました。サークルの活動を信頼し、サポートしてくれたことは大きな支えになりました。さらに、NPO法人「子育て支援ネットワークとくしま」からも多くの支援や助言が得られたため、活動をスムーズに進めることができました。

### 直面した課題と解決方法

#### 活動の進め方を見直し、自分たちにできることを「ぬるくゆるく」実践

課題は、仕事との両立、時間的余裕、モチベーションの維持などが挙げられます。

活動しているメンバーは、20代～30代の働き盛り。仕事は忙しく、家庭でも家事・育児をしっかりとこなしているため、活動するには自分のための時間を削るしかありません。また、小学生になると休日に習いごとをする子どもが増えてくるので、その送り迎えや付き添いのため、メンバー全員が揃うことはまずありません。活動したくても余裕がなくてかなわず、遠ざかっていくメンバーもいます。イベント開催時など、負担が主要メンバーに集中してしまい、体を壊してしまうメンバーも出てしまいました。

このままでは団体を継続できないと思い、サークルの存続を重視することにしました。「月2回集合」、「いつかはNPOを目指す」など、当初に高く掲げたハードルを、「自分たちのできることを、できる範囲でやる」に直し、モットーは「ぬるくゆるく」としました。今では、1年に1回、活動に参加してもらえれば、嬉しいと思っています。

### これからの展望

#### たくさんの「お父さんを楽しめる場」づくりに励みたい

これまでの活動を通じて、メンバーは「自己成長」、「新たな社会とのつながり」、「自分の居場所（存在価値）」を見出してくれています。また、活動に参加してくれた人からの感謝の言葉、大きな山を越えたときの達成感や充実感、たくさんの人との出会いなど、「お金で買えない幸せ」を手に入れることができました。今後、行政には、皆で連携できる環境づくりの構築を期待しています。現在、活動している団体は、情報に飢え、体力（時間・費用・人材）に余力がないと思うからです。

個人としては、「男性の意識改革、男性の働き方改革」を行うとともに、「男性が育児休業を取りやすい環境」の整備に尽力したいと思っています。今がその絶好の転換期であり、最後のチャンスとも思っています。サークルとしては、たくさんの「お父さんを楽しめる場」をつくっていきたいです。